

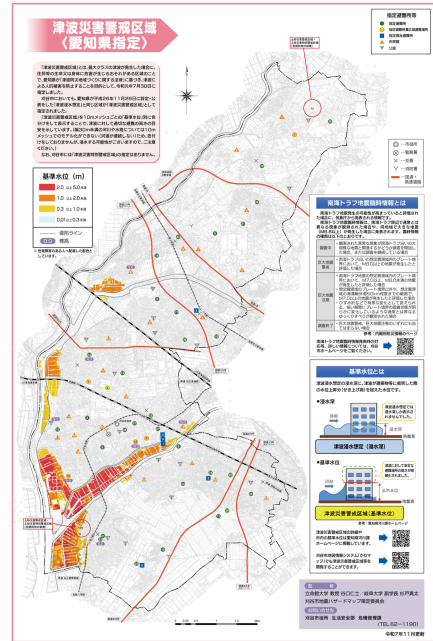
小垣江防災通信 第1回 ハザードマップを確認しよう

南海トラフ地震が起きたとき、あなたの家は大丈夫でしょうか。小垣江地区自主防災会では、地域の皆さんが命を守るための防災情報をシリーズでお届けします。何よりも重要なことは、「自宅がある場所」にどんな危険性があるのか、知ることです。備えるべき内容は、住んでいる場所によって異なります。そこで役に立つのが、刈谷市ハザードマップ。



地震 水害 高潮 かりマップ

- より詳しい地図を見たい方は、かりマップ（防災）へ👉
- 印刷物は、小垣江市民センター、市民館で入手できます



出典：刈谷市地震ハザードマップ（津波災害警戒区域）

「津波なんて来るの」と思いますか？三河湾の最深部に位置する境川河口には、津波が遡上してくることが予想されています。ハザードマップは、災害が起きてから見るものではなく、平時に確認しておくものです。

自治会ホームページで防災情報を発信中



Copyright 2026 小垣江地区自主防災会.

小垣江防災通信 第2回 在宅避難のすすめ

各地で災害が起こるたびに報道される“指定避難所”。「ここに行けば、安心安全だ」と思っていませんか？南海トラフ地震が起きた際、刈谷市は6人に1人が避難所に行く想定して、水や食料を備蓄しています。小垣江町・荒井町では2400人が倒壊・浸水・焼失等で自宅に住めなくなることを想定しているのです。

刈谷市の想定避難者数

人口 15.3万人
避難者 2.4万人



避難所 在宅避難

- 避難所に身を寄せるのは、6人に1人（倒壊・浸水・焼失で自宅に住めなくなった人の“生活の場”）
- 6人に5人は、在宅避難が必要

小垣江町・荒井町

人口 1.5万人
避難者 2400人？



「刈谷市は、(2.4万人の)被災者に対し、3日分の水・食料を備蓄している」

避難所	児童・生徒数	避難者数
小垣江小	600	800 ?
東小	236	800 ?
依中	709	800 ?

- 避難所は過酷な環境
- 開設・運営は当事者が行う



避難所に行かなくて済むような、備えが重要！

手ぶらで避難所に来て、直ぐに食事にありつける訳ではない

しかし、左の試算からも分かるように、避難所は過酷な環境になります。

そこで、まずは”自助”。

自宅の耐震化、家具の転倒防止、食料・水・携帯トイレなどの家庭内備蓄を行って、在宅避難できるように備えましょう。

自治会ホームページで防災情報を発信中



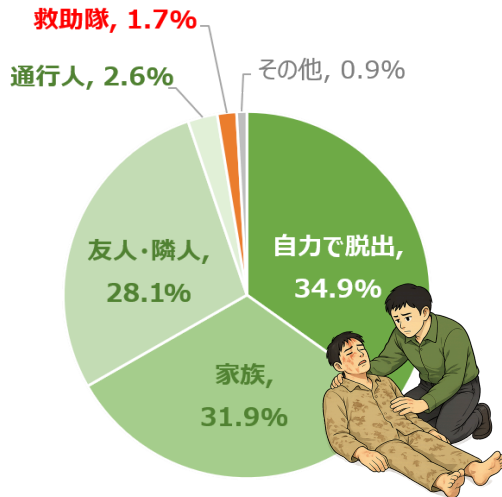
Copyright 2026 小垣江地区自主防災会.

小垣江防災通信 第3回 安否確認の大切さ

毎年9月に行われる安否確認訓練。「やる意味なんてあるのか?」と思っていないですか?

● 公共機関には、つながりません!

南海トラフ地震など大災害発生時は、警察や消防などの公共機関に通報しても、救助が期待できません。なぜなら、公共機関の職員さんも、我々と同じ地域に住む”被災者”だからです。



出典：内閣府「平成26年度版防災白書」より作図

● 一刻を争う安否確認

発災時は、白布確認隊員が各戸の安否確認に回ります。白布掲示されていると、外から一目で無事と分かり、より早く多くの人の安否を確認できます。



● 誰に助けられたか?

左のグラフは、阪神淡路大震災において調査した結果です。救助隊に助けられた人は2%以下。頼るべきは、**近所の力(近助)**です。

次回 R8年9月6日の訓練より、実施方法を若干変更します。詳しい実施方法は、7月中に役員向けに説明します。

安否確認方法は
こちら



Copyright 2026 小垣江地区自主防災会.

小垣江防災通信 第4回 携帯トイレを備えよう

● 災害時は水洗トイレが使えない



出典：日本トイレ研究所、能登半島地震のトイレ(2024.1)



● あなたなら、どうしますか?

- ① 我慢する ⇒ 復旧まで何日も関わります。我慢すると命にかかわります。
- ② 避難所や公園に行く ⇒ どのトイレも水は流せません。
- ③ 自宅庭など屋外で用を足す ⇒ 女性やお年寄りはどうしますか?



● 自宅トイレ(便座として) + 携帯トイレで、1週間しのぐ

自宅が倒壊せず、個室として利用できるなら...

“携帯トイレ”を備蓄する

家族人数 × 5回/日 × 1週間分 (4人家族なら140回分)



便・尿を凝固剤で固める 蓋つきバケツに保存し、後日可燃ごみとして廃却

Copyright 2026 小垣江地区自主防災会.

小垣江防災通信 第5回 あなたの家は大丈夫ですか？

～木造住宅無料耐震診断のお知らせ～

● 刈谷市では13軒に1軒が全壊する想定です

南海トラフ地震で、刈谷市では最大震度7が想定されています。愛知県の被害想定では、市内で約5,400棟の住宅が全壊し、建物倒壊による死者は約200人とされています。大切な命を守る第一歩は、「我が家の状態を知ること」です。



出典：刈谷市木造住宅耐震診断

● 対象となる住宅

2000年（平成12年）5月31日以前
に着工した木造住宅

● 診断は **無料**

市から専門家が派遣され、住宅の耐震性を調査してくれます。
所有者の費用負担はありません。

- 耐震性が不足していると判定された場合は、補強工事に対する補助制度もあります。まずは無料診断で、我が家の状態を確認してみませんか。

自治会ホーム
ページで防災
情報を発信中



Copyright 2026 小垣江地区自主防災会.

小垣江防災通信 第6回 避難袋を準備しよう

～手ぶらで避難所に行っても食事にはありつけない？～

● 避難所に行けば大丈夫...ではない

南海トラフ地震が起きると、小垣江地区では860棟の家屋が全壊・焼失し（8軒に1軒）、約2400人が避難所に殺到します。避難所の備蓄だけでは十分ではありません。



● 避難所にある非常食

例えば小垣江小にある非常食は、軽食2食(クラッカーとアルファ米)と500mL PETボトル1本、約300人分のみ。発災直後をしのごとしか出来ません。自分の食料は持参する必要があります。



● 準備の考え方

- ① “自宅にはもう戻れない”という覚悟で、事前準備する。
- ② 老若男女、1人1つ準備。自分の分は自分で。
- ③ 移動用品（ヘルメット、ライト、運動靴、雨具他）
- ④ 避難所で、「食べる／寝る／排泄する」ためのもの
- ⑤ 衣類（夏用／冬用）、衛生用品
- ⑥ 情報収集ツール（ラジオ、スマホ、バッテリー他）
- ⑦ 眼鏡/コンタクト、常備薬、生理用品、乳児用品他



※ 正解はありません。避難所で困らないために、今日から一つずつ準備を始めましょう。

Copyright 2026 小垣江地区自主防災会.

小垣江防災通信 第7回 家具の転倒防止とガラス飛散防止

～家の中で命を落とさない！～

● 人生の約3分の1を過ごす寝室を安全に

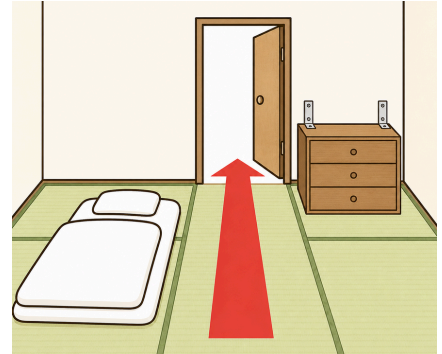
阪神・淡路大震災は、早朝に発生。亡くなった方の約8割が窒息・圧死でした*。

また、けがの原因では「家具の転倒」が48.5%と最も多く、家具固定とガラス飛散防止は、命を守る大切な備えです。

*兵庫県資料・神戸市消防局調査などによる

● 今日から、やること

1. 寝室に背の高い家具を置かない
2. 出入口や避難経路をふさがないように置く
3. 家具を固定する（L字金具など）
4. ガラスに飛散防止フィルムを貼る
5. 一度に全部やろうとせず、まずは寝室から



● 挟まれたくはない。やった方がいいのは分かっている。

だけれど、高齢だし、費用もかかるし、なかなかできない…。

大丈夫。そんなときは、他の人の力を借りましょう。刈谷市では、65歳以上のみの世帯を対象に、家具固定の取付支援を行っています。費用は1家具平均2,000円、4点まで取付料金は無料です。まずは刈谷市長寿課（☎0566-62-1063）にご相談ください。申請後、シルバー人材センターの担当者が調査に伺い、後日施工します。

※ まずは寝室から始めましょう

刈谷市 家具転倒防止器具取付



Copyright 2026 小垣江地区自主防災会.

小垣江防災通信 第8回 河川津波から命を守る

～車ではなく、歩いて川から離れる！～

● 津波は、川をさかのぼって来る

南海トラフ地震では、小垣江地区の南西部に、津波による浸水が想定されています。

津波は普通の浸水とは異なり、水の流れに強い力があります。

ひざ下ほどの高さでも、歩くことは困難です。

● 今日から、確認すること

1. 自宅や職場が津波浸水想定区域に入っていないか確認する
2. 避難する方向を決めておく
3. 川沿い・橋・踏切を避ける道を考える
4. 原則、車ではなく、徒歩で避難する
5. 家族で「どこへ逃げるか」を話し合う

● 車で逃げると、かえって危険です

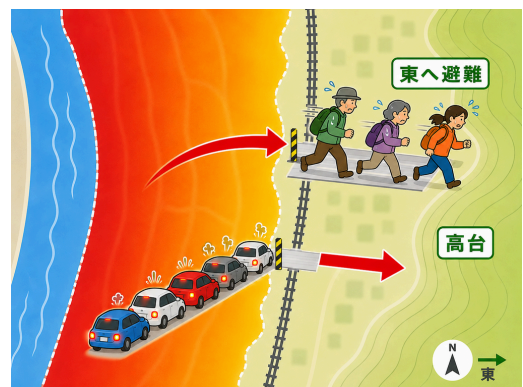
津波到達までには時間があると想定されています。

しかし、みんなが一斉に車で避難すると、踏切や橋の周辺で渋滞が起こり動けなくなるおそれがあります。大切なのは、早めに、歩いて、川や浸水域から離れること。

自宅、職場から、徒歩で逃げる道を一度確認しておきましょう。

※ まずは刈谷市地震ハザードマップで、自宅や職場を確認しましょう こちら

※ 津波からは、原則、徒歩で避難しましょう



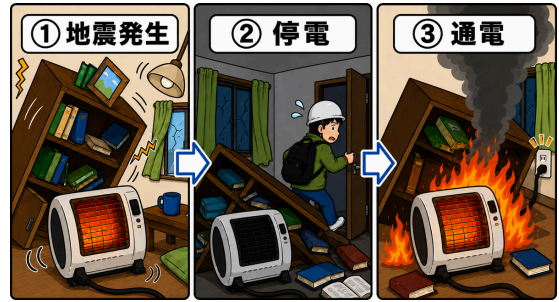
Copyright 2026 小垣江地区自主防災会.

小垣江防災通信 第9回 感震ブレーカーを設置しよう

～地震のあと、電気火災を起こさない！～

● 通電火災の恐ろしさ

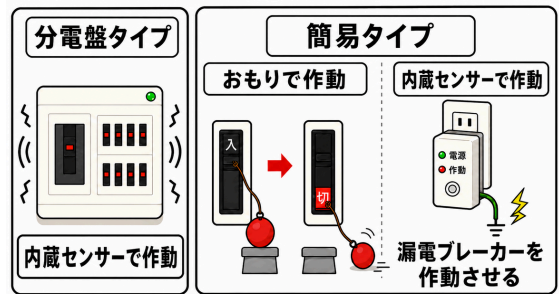
地震で怖いのは揺れだけではありません。停電が復旧したとき、倒れた電気ストーブ、傷んだコードなどに再び電気が流れ、火災が起きることがあります（通電火災）。家を離れているとブレーカーを落とすこともできません。そこで役に立つのが、揺れを感知して自動で電気を止める**感震ブレーカー**です。



※ストーブだけでなく、電気配線が損傷して火元となることがあります。

● 感震ブレーカーは大別して2タイプ

感震ブレーカーには、**分電盤タイプ**、**簡易タイプ**があります。その他、接続した特定の機器のみ遮断するコンセントタイプがあります。自宅に合うタイプは、内閣府チラシ等で確認しましょう。



● 刈谷市の設置費用補助制度を使おう

分電盤タイプは着工前に申請が必要。**簡易タイプ**は購入後の申請となります。詳細は市ホームページで確認してください。



刈谷市



内閣府

Copyright 2026 小垣江地区自主防災会.

小垣江防災通信 第10回 地震火災を防ごう

～火事を出さない備えが、まちを守る～

● 地震火災は、消しにくい

地震で怖いのは、揺れや津波だけではありません。火災が起きてても、道路の混雑や倒壊物により、消火活動が遅れることがあります。住宅密集地では、火が隣家へ燃え広がるおそれもあります。



● 火を出さない備えを

関東大震災では約9万人、阪神・淡路大震災でも559人が、火災により亡くなったとされています。**地震火災は、起きてから消すより、火を出さない備えが大切です。**

● 今日から、できること

感震ブレーカーの設置、火元まわりの整理、配線やコンセントの点検など、各家庭で“火を出さない備え”を進めましょう。



Copyright 2026 小垣江地区自主防災会.